

脱炭素先行地域
山口県下関市

下関市環境基本計画の改定について

- 環境基礎調査及びアンケート調査結果の共有
 - 現行計画の評価及び課題の整理
 - 次期計画に向けた検討の視点の確認
- ⇒ **現状と課題を共有し、検討の出発点を整理**

■ 計画の見直しの契機

- ・ 令和8年度末における現行計画の期間満了

■ 見直しの必要性

- ・ 現行計画における課題
- ・ 環境政策を取り巻く社会情勢の変化

⇒ **計画の見直しが必要（※詳細は後述）**

- 現行計画の評価（成果指標・進捗指標・主要施策）
- 環境基礎調査（文献調査）
- アンケート調査（市民・事業者）

⇒ **複数の視点から現状と課題を把握**

○ 一部の指標では改善

→ 生活環境は満足度向上・目標達成、地球環境はCO2排出量削減が進展

○ 自然環境や循環型社会は横ばい・未達

→ 自然環境は満足度の伸びが限定的、循環型社会は再生利用率が横ばい

○ 施策は実施されているが進捗に課題

→ 進捗指標は横ばい・未達が多く、分野間で差

⇒ **成果と進捗の乖離 + 分野差が課題**

5 現行計画の評価（分野別）

- 自然環境
→ 取組はあるが市民の実感としての満足度の伸びが限定的
- 生活環境
→ 満足度が向上し、施策と成果が結びついている
- 地球環境
→ CO2排出量は減少しているが、主体的な行動の広がりも限定的
- 循環型社会
→ ごみ減量は進むが、再生利用率は横ばい
- 環境基盤施策
→ 担い手不足により、取組の広がりに課題

⇒ **分野によって、施策と成果の結びつきに差**

- 自然環境：維持・管理に課題
- 生活環境：概ね良好な状況を維持
- 地球環境：CO2排出量は減少傾向
- 循環型社会：ごみ排出量は減少傾向だが、社会情勢の変化により再生利用率は横ばい

⇒ **分野ごとに課題の度合いに差がみられる。**

- 人口減少・少子高齢化の進行
→ 地域活動の担い手不足に影響
 - ライフスタイル・消費行動の変化
→ 環境配慮行動のあり方に影響
 - 国の政策動向（脱炭素・30by30・循環経済）
- ⇒ **担い手減少や生活様式の変化により、従来の施策では対応が難しくなっている。**

■ 意識

- ・ 環境への関心は「自然保護」から「生活環境の質」へシフト
- ・ 脱炭素は認知されているが、生活との結びつきは弱い

■ 行動

- ・ ごみ分別など日常的な取組は定着
- ・ 設備投資やイベント参加などの行動は限定的

■ 課題

- ・ コストや情報不足が行動の障壁
- ・ 環境配慮が「我慢・負担」と認識されている。

⇒ **実利や生活価値に結びつかない限り、行動に広がらない。**

■ 意識

- ・ 環境対応は社会貢献ではなく経営課題として認識
- ・ 認証制度よりも実効性のある対策を重視

■ 行動

- ・ LED化など低コスト対策は進展
- ・ 再エネ導入等の大規模投資は慎重

■ 課題

- ・ 人材、ノウハウ、資金の不足
- ・ 排出量の把握など基礎的取組が未整備

⇒ **実行に必要な体制や条件が整っていない。**

- 施策は実施されているが、成果や市民実感に十分結びついていない
- 分野によっては施策の進捗自体が十分でない
- 市民や事業者の行動が広がる仕組みが不足

⇒ 「**施策 → 行動 → 成果**」の接続に課題

- 施策と成果の乖離
- 行動変容を促す仕組みの不足
- 担い手・実行体制の不足
- コスト・情報等の実行障壁

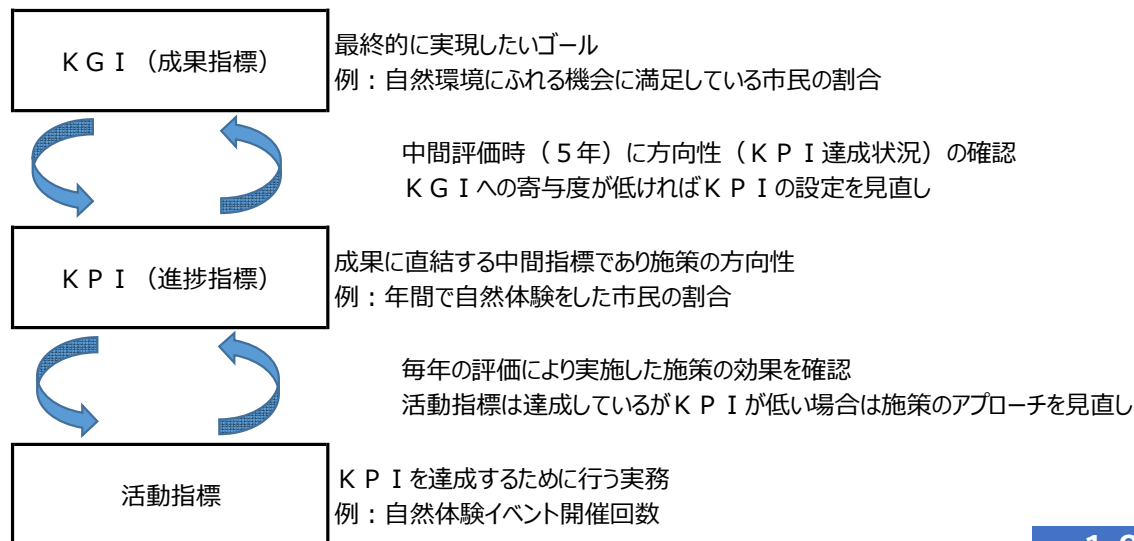
⇒ **行動と成果につながる構造の再設計が必要**

- ① 計画の対象範囲の整理・見直しと管理指標・事業の重点化及びスリム化
 - ・現行計画で取り扱っていた6区分を5区分に統合し、うち2区分については下位計画（地球温暖化対策実行計画、一般廃棄物処理基本計画）へ委任
 - ⇒ **計画間の重複を回避**し、効率的な施策体系を構築
 - ・現行計画指標が多く（成果指標：13、進捗指標：41、主要な施策：133）、網羅的な構成による論点の分散と評価の形骸化
 - ⇒ **施策・指標の重点化及びスリム化**による効果的な計画運用の実現
- ② EBPMに資する指標体系の構築
 - ・施策の目的・成果・活動の関係を体系的に整理し、指標間の整合を確保することで、**EBPM（証拠に基づく政策立案）に資する指標体系を構築**

① 計画対象範囲の整理・見直し

現行計画	次期計画
自然環境	自然環境
生活環境	生活環境
都市環境	
地球環境	地球環境（下位計画へ委任）
資源循環	循環型社会（下位計画へ委任）
仕組み	環境基盤施策

② EBPMに資する指標体系の構築イメージ



- **自然環境：市民実感と結びつく施策を強化**
- 生活環境：良好な状態を維持
- 地球環境：基本計画で方向性を示し、具体化は下位計画で展開
- 循環型社会：基本計画で方向性を示し、具体化は下位計画で展開
- **環境基盤施策：行動変容を促す仕組みを構築**

- 課題の整理は妥当か
- 今後の方向性（案）は妥当か
- 施策と成果をどのように結びつけるか
- 行動を促す仕組みは何か

⇒ **課題構造を踏まえた施策設計が必要**

15 今後のスケジュール（案）



時期	内容
5月末	第2回環境審議会 計画骨子の審議（施策体系と方向性の整理）
8月末	第3回環境審議会 計画素案の審議（施策内容・指標構造の確認）
10月末	第4回環境審議会 計画原案の審議（パブリックコメント前確認）
11月中	パブリックコメント
1月末	第5回環境審議会 パブリックコメント反映案の確認と答申案の審議
2月	答申